

# “生きる力”は遊びから

～こどもたちの笑顔のために～

## 第2回 子どもの「やりたい！」を大切に



中川 奈緒美 (なかがわ なおみ)

[NPO法人あそびっこネットワーク]代表。  
「プレーパーク」「おひさまびよびよ」「練馬区立こどもの森」など、練馬区内7か所の公園で、乳幼児の親子や子どもたちが自由にのびのびと遊ぶ“あそび場”を運営している。<http://asobikkonet.com/>



ヤーさん

ある土曜日の昼下がり。ふと気づくと、さっきまで走り回っていた小学生女子たちの姿が見えない。園内を見て回ると、彼女たちは基地の屋根の上にいる。細いテーブルを挟んで2人ずつ、狭いスペースで膝を突き合わせるように座っている。何やらケラケラとみんなで笑って楽しそう。どうやらランプでババ抜きをしている様子。他にも広い場所があるのに、なんでこんな狭いところで…と聞いてみようとして、思い直す。きっとこの場所だからこそ、こんなに楽しいんだ。

子どもの頃、自分たちだけの場所で、遊びに夢中になった特別な記憶がふわっとよみがえる。そう、今ここは彼女たちだけの世界。何人たりともこの空間に入るべきでない。

この世界を破るような無粋な大人にはなるまい。「楽しめよー」と心の中でひと言つぶやいて、その場を離れたのでした。

この文章は、「練馬区立こどもの森」のスタッフの佐々木康弘さんが書いたものです。

15年前、小学生の我が子たちが、「秘密基地をつくりたい!」と近所で場所を探したのに見つからず、結局家でゲームをしている姿を見て、私は練馬にプレーパーク(=あそび場の名前)をつくると決めました。子どもだけの空間、ボクらの居場所…いわゆる秘密基地的な遊びをしたい年齢があります。子どもが「やりたい!」と思う遊びは、挑戦です。成長のために必要な体験



イラスト：小原 真

です。そして、ワクワクドキドキする冒険です。あそびっこネットワークが運営する「あそび場」が別名“冒険あそび場”と呼ばれるのは、ボール遊びさえ禁止の今時の公園とは違い、子どもたちの「やりたい!」が実現できるから。

ご年配の方が口々に「昔の子どもはみんなこんな風に遊んでいたのよ。ここには懐かしい風景があるわね〜」と

おっしゃいます。練馬で育つ子どもたちが、毎日遊びながら、たくさん冒険できることを願っています。